

授業概要

子どもの成長・発達を中心に、広く母子の健康に関する問題を取り上げる。一般的な子どもの傷病に関する知識に留まらず、集団保育・少人数保育の現場における感染防御や事故防止へのプレパレーション等、保育専門職として必要な対応を学んで行く。医学的・社会的・心理学的なアプローチから、最新の報告に基づいた知見を取り上げる中で、保育現場・地域の健康増進に寄与し得る科学的リテラシーを身につける。

授業計画

第1回	健康とは何か
第2回	リプロダクティブ・ヘルス/リプロダクティブ・ライツ
第3回	発育と発達・Ⅰ（形態学的成長）
第4回	発育と発達・Ⅱ（運動機能）
第5回	発育と発達・Ⅲ（言語・認知・情緒・社会性）
第6回	発育と発達・Ⅳ（生理機能）
第7回	子どもの食と栄養（乳児）
第8回	子どもの食と栄養（幼児）
第9回	子どもの病気（先天異常等）
第10回	子どもの病気（感染症等）
第11回	感染防御と予防接種
第12回	事故と応急処置・Ⅰ（創傷・熱傷）
第13回	事故と応急処置・Ⅱ（打撲・誤飲・溺水）
第14回	障害を持った子ども
第15回	母子保健行政
第16回	定期試験

到達目標

妊娠・出産の一連の過程を始めとして一般的な子どもの成長・発達のあり方と各年齢における発達の特性を理解する。また子どもに多くみられる事故や病気の対応とその予防について具体的に知りながら保育士としての専門性を高める。

履修上の注意

授業内の小レポートや、授業外で行う課題を課すことがある。私語を慎みながら、発言・質問等は積極的に行うこと。著しい私語等で授業環境を乱す者については、退出を命じる場合がある。授業内での携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。

予習・復習

予習としてテキストの予告された箇所を授業前までに通読すること。当該テーマのより良い理解のために、授業内で紹介する参考文献や資料による復習をすること。

評価方法

授業内での発言、小レポート、定期試験等から総合的に評価する。

テキスト

平山宗宏・他『子どもの保健と支援』（日本小児医事出版）